のみならず実用化のための治験支援を含めた開発、H5N1 インフルエンザウイルス等を想定したパンデミックの準備として検討を行ってきた様々な政策(検疫、サーベイランスなど)の有効性を評価する研究を実施することで、我が国の今後の新型インフルエンザに関する施策に大きく資するものと考えられる。また、定期の予防接種対象及び対象となっていない予防接種についての安全性・有効性に関する研究、アジア諸国を中心としたデング熱やウエストナイル等感染症の状況の把握や迅速な対応の基盤となるサーベイランスの改良等が必要とされており、これらの研究を推進することで、感染症対策の充実が図られ、国民に貢献すると期待される。

# 【エイズ対策研究】

エイズ対策は、保健分野だけの問題ではなく、社会・政治・文化・経済・人権全ての分野に関わる重要課題であり、全世界で一丸となって対応すべき問題とされている。エイズに関する研究を推進することは、国内のみならず、我が国よりも更に深刻な状況に直面している開発途上国に対する支援にも結びつくものであり、他の先進諸国とも共同しながら、当該事業を積極的に推進する必要がある。

#### 【肝炎等克服緊急対策研究】

肝硬変を含めた治療のガイドラインが作成され、ペプチドワクチンを用いた新たな治療法が開発され、培養細胞におけるC型肝炎ウイルスの増殖系が開発され、また、ヒト肝細胞キメラマウスを用いた感染病態の把握がなされつつあり、感染機構の解明に向けた十分な成果が得られている。さらに、インターフェロン治療導入の妨げとなっている要因探求に取り組んでおり、その要因に対する対策を推進することで、治療促進が期待される。今後も「肝炎研究7カ年戦略」(平成20年6月)を踏まえ、一層の研究推進が必要である。

# 4. 参考(概要図)

# 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

一般公募

型

٦

#### 1. 新型インフルエンザへの対応に関する研究

人類のほとんどの者が免疫を持たない新型インフルエンザは、WHOのフェーズ6宣言を受け、現在、全世界で対策が進められている。日本においては、5月16日に初の国内発生を認め、一部地域での感染拡大が認められたが、種々の対策を講じ、国内感染者の増加は一時落ちつきをみせている。しかし、今後想定される第三波・第三波の対応に向けての準備や、高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)から新型インフルエンザが発生する蓋然性が未だ低下していないことから、これらに対する研究はますますその重要性を増している。

- ○新型インフルエンザのリスク評価及び大流行に関する事前準備と緊急対応に関する研究
- ○各種施策介入のシミュレーションモデルの開発等の疫学研究及び社会学的研究
- ○様々な政策(検疫、サーベイランスなど)の有効性の評価に係る研究(各国が講じた施策との比較など) 等

### 2. 感染症の新たな脅威への対応及び感染 症対策の再構築に関する研究

- ○1類感染症・バイオテロに迅速に対応するための迅速診 断法等の研究
- O2012年までに排除を目指す麻疹(はしか)や、まん延国と定義される結核等に関する感染症対策の点検及び再構築を行うための研究 等

#### 。 3. 国際的な感染症ネットワークを活用した対 策に関する研究

- ○アジア諸国を中心に見られる多剤耐性結核菌やデング熱 等の感染症対策に資する研究
- ○アジアの研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークの強化に関する研究 等

2. 指定研究

- 1. 感染症対策にかかる基盤整備
  - 迅速な対応の基盤となる感染症の発生動向に関する新たなサーベランスの研究
  - 予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究
  - 〇 新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

等

# 2. 細胞培養系を用いた新型インフルエンザワクチンの開発研究

○組織培養ワクチンの開発に関する研究

全国民分のインフルエンザワクチンを短期間で安定して製造できる体制を構築